

1 普及啓発に関する取組
(1) 講演会、セミナー

新市誕生記念事業「みんなのしゃべり場」開催

青森県十和田市総務部広報広聴課男女共同参画係

(H17. 4. 1 現在人口 68, 611 人)

TEL 0176-23-5111 内線 158

FAX 0176-22-5100

メールアドレス

ホームページ

towada-somu@net.pref.aomori.jp

http://www.net.pref.aomori.jp/city/towada/

○ 目的・概要

平成 13 年 3 月に「十和田市男女共同参画社会推進計画・『女と男』がともに輝くまち」を、翌年には「2001-2004（前期）十和田市男女共同参画社会推進事業計画」を策定し、現在 131 事業を各課において実施しているところです。

平成 17 年 1 月 1 日隣町「十和田湖町」との合併で新「十和田市」となったことを機会に、改めて「男女共同参画社会」実現の必要性について、市民の視点にたった分かりやすさに重点を置き、日常生活のなかでの身近な問題から理解を深めて頂くことと、自分なりに気づき、考え、行動していくことを啓発することになりました。

【開催日時】：平成 17 年 9 月 29 日（木）午後 6 時 30 分

【内 容】：二部構成

第 1 部 寸劇 演題「ひまわり」 越後屋一座

【あらすじ】 十和田市で農家を営む佐々木義蔵の三女・夏子が、二人の男性からプロポーズされる。二人は、ばりばりの亭主関白派と男女共同参画推進派という、全く正反対の考え方の持ち主。
そこで、夏子の両親は、二人の男性と関係者を家に招き、娘の結婚相手にどちらがふさわしいか、さまざまな質問をぶつけながら、決めることにしたのだが……。

第 2 部「みんなのしゃべり場・トークセッション」

進行 八戸大学学長補佐・教授 内海 隆氏

第 1 部の寸劇や日常生活をとおして、参加者との会話形式で男女共同参画社会について考えます。

○ 特徴

1. 第 1 部の寸劇では、越後屋一座の代表が内海教授から「男女共同参画」についての講義を受け、その上で台本の制作、演技、上演し、この事業以降も機会があれば公演し、啓発に協力願うものです。
2. 第 2 部の「みんなのしゃべり場」では、寸劇のテーマを基に、あるいは切り口に、参加者の生の声を聞くことを重点に置きながら、「男女共同参画」について考える機会「トークセッション」にすることです。
3. この事業は、青森県男女共同参画センター事業「オープンカレッジ」並びに「十和田市民大学講座」との共催で実施します。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

1. 「みんなのしゃべり場」は、この他に年 3 回ほど「ワークショップ形式」で実施します。これまで 2 回実施し、その内 1 回は「男性限定」で女性がいる前では言いにくいことも話ができる環境を作りました。この積み重ねを 9 月 29 日に持って行きたいと考えています。
2. これまで、「男女共同参画」を推進する上で、各種フォーラムやセミナーでは男性の参加が少なく、また、その聴衆も限られてきており、新たな事業展開が求められていましたが、当面意見の統一性を持たないワークショップ形式の「しゃべり場」を各地区で開催することで、その課題をクリアできそうな手応えを感じています。
3. 平成 17 年 2 月にも市内で活動する劇団による寸劇を行いました。このときは既にテーマに沿った台本があったので、それに基づいて公演していただきました。今回ご協力いただく劇団は、書き下ろしの作品となるので、台本を書く前に八戸大学内海教授の講義を受けていただき、男女共同参画について理解してもらい、教授のアドバイスをいただきながら台本を書いていただきました。その際、できるだけ市民に受け入れられやすいテーマをとということで、家庭の出来事を題材にしたものになるよう依頼をしました。今回の公演だけでなく将来的にも啓発部分を担っていただきたいことを説明しました。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

平成17年度予算額：1,576千円

従事する職員数：2人（H17.4.1から専従職員）

○ 取組による効果、参考データ等

参加者数はそれほど多くないが、男性限定の「みんなのしゃべり場」では、堅くとらわれがちな男女共同参画についてソフトにアプローチすることができました。また、市議会議員（男性）も参加され、今後の普及啓発に非常に有意義でした。

1. 平成17年2月24日開催（場所旧十和田湖町）（市民100人参加）
「みんなのしゃべり場」
第1部 講演「男女共同参画は足下から～あなたの家庭はどんな感じ？～」
講師 岩手大学助教授 新妻 二男氏
第2部 寸劇「稼げ！！カラヤギとっちゃ（怠け者の旦那）」
劇団 M' S PARTY
2. 平成17年5月20日開催
第1回「みんなのしゃべり場」
テーマ「家庭から始めよう！男女共同参画」
参加者数 53人（うち男性12人）
（外部専門女性2名、男性1名と市男女共同参画懇話会副会長（女性）の4名のファシリテーターによる、4グループでの話し合い）
3. 平成17年6月20日開催
第2回男性限定「みんなのしゃべり場」
第1部 体験発表 十和田市農業委員・十和田市男女共同参画懇話会副会長 甲田 稔氏
第2部 参加者数24人
（市男女共同参画懇話会委員男性3名のファシリテーターによる、3グループでの話し合い）

○ 今後の課題・方向性

これまでの取組は主として市民もしくは各家庭への普及推進を図ってきましたが、今後は事業所への取組が必要となってきます。

事業所への取り組みは、青森県や（財）21世紀職業財団との連携で情報提供や再就職セミナー等を実施してきましたが、事業所の理解をどのように得ていくのかが課題となっており、庁内担当課及び商工会議所との協力を得ながら、進めていきたいと考えております。

また、この政策を更に推進するために、来年度以降に「男女共同参画宣言都市奨励事業」の実施について検討を考えております。

○ その他特記事項

1. 「十和田市男女共同参画社会推進体制」として、
 - ・十和田市男女共同参画懇話会（市民15人）（年2回実施予定）
 - ・十和田市男女共同参画社会検討委員会（市庁内政策推進機構 全課より54人）
 - ・十和田市男女共同参画社会専門部会（上記検討委員会下部組織全課より54人）で構成されており、各課との連携を図りながら政策の推進にあたっております。
2. 「2001-2004（前期）十和田市男女共同参画社会推進事業計画」の2004年度の事業調査実施中。
3. 市民対象意識調査実施中（対象：無作為抽出市民3,000人）（前回実施：平成11年度）
4. 市職員対象意識調査実施中（対象：正職員621人）（前回実施：平成11年度）
5. 「2005-2007（中期）十和田市男女共同参画社会推進事業計画」策定予定
6. 市民編集情報誌「ゆっパル」年2回発行（内1回「広報とわだ」へ掲載）毎戸配付
7. 十和田市女性団体連絡協議会（事務局広報広聴課）では、市との共催事業の展開

男女で作るうまカレーコンテスト（標語の募集とその活用）

秋田県鹿角市市民部市民サービス課市民共働班

(H17.4.1 現在人口 38,224人)

TEL 0186-30-0202

FAX 0186-22-2042

メールアドレス

ホームページ

info@city.kazuno.akita.jp

<http://www.city.kazuno.akita.jp/kyoudou/umacurry/umacurry1.htm>

○ 目的・概要

本市では、平成16年度に男女共同参画をわかりやすくイメージさせる標語の募集事業を行い、最優秀作品2点（一般の部、学生の部それぞれ1点）を決定しました。

このうち、高校生の手による最優秀作品「男だけの色なしカレー 女だけの味なしカレー 男女でつくるうまカレー」が全世代の幅広い支持を受け、ぜひこれを活用した啓発イベントを実施すべきとの市民の声が強かったことから、標語の浸透による一層の男女共同参画推進を目的として「うまカレーコンテスト」を開催するものです。

期日：平成17年9月18日（日）

主催：鹿角市うまカレーコンテスト実行委員会

後援：鹿角市・秋田県

会場：道の駅かづの「あんとらあ」

コンテストは、カレーづくりを男女の共同作業としてとらえて、男女のペアがつくるカレーの味、調理時の雰囲気などを審査します。来場者も出来上がりの作品を試食することにより、審査に加わり、さらに保育園児が描いたうまカレーの絵を会場に展示します。

また、コンテストのプレイベントとして、「男女でつくるうまカレーって何？」をテーマにエッセイを募集し、コンテスト当日会場で朗読発表することになっています。

○ 特徴

事業のアイデアが生まれたのは標語の「募集・選定委員会」で作品の最終選考を行っていた席上。委員が当該標語は発展性があるとしてイベント実施を提案し、こんな標語を放っておくのはもったいないとの委員の総意で、今年度早々に実行委員会を立ち上げました。審査過程で既にイベント実施の意思確認がなされ、委員がマスコミ等に向けても発表したため、開催前から内外の注目を集めています。

男女共同参画をテーマにした楽しいイベントであり、また、市の標語に因んで開催するものであることから、非常にユニークなイベントであると考えています。

カレーは日本国民にとって非常にポピュラーな料理であり、八幡平ポークや鹿角牛、トマトなど鹿角産の食材を活用しながら、食によるまちおこしの事例としても期待しています。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

男女共同参画社会の形成が市民1人ひとりの意識に係わるものであり、その啓発活動は市民とともに進めるべきとの考えに立ち、市民のアイデアに都度対応しながら標語の募集等を行いました。うまカレーコンテストについても、標語の選考に係わった市民に実行委員会の中心的メンバーとして引き続き関わっていただき、市民主体で運営しています。

内容については、レクリエーション的な要素をふんだんに盛り込みながら、参加者がそれぞれ、夫婦関係、親子関係、友達関係などにおいて新しい発見をし、そこから男性も女性もそれぞれの個性や能力が尊重される社会について考えるきっかけとしたいと考えています。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

予算：特になし

従事する職員数：担当職員2名が実行委員会参加。

○ 取組による効果、参考データ等

イベント開催を通じて、前年度の標語募集で盛り上がりを見せた機運を、そのまま次年度に継続することが期待されます。

前年度の標語の募集を通じて、男女共同参画認知度は51.8%（H15）から68.4%（H16）に上昇しました。

○ 実施にあたって活用した支援制度

実行委員会が秋田県の補助制度「地域のきらめき発掘事業」による支援を受けました。

○ 今後の課題・方向性

うまカレーコンテストは市民主体のイベントとして継続し、本市の一大男女共同参画イベントとして実施していきたいと思っております。本イベントを通じて男女共同参画に対する市民の無関心や敬遠する気持ちを和らげ、男女共同参画を日常の社会生活に関する重要課題として認知させ、まずは男女共同参画という言葉の認知度が80%に達するのが目標です。

その上で、事業者や自治会長など職場・地域団体のトップの男女共同参画社会の実現に向けた社会改革、組織改革などの取組を引き出し、育児休業や子どものための休みを取りやすい職場、男女が意思決定に参加し事業を分担し合う地域社会を実現することが将来的な課題と考えています。

○ その他特記事項

平成14年度において策定した鹿角市男女共同参画計画の策定過程への市民参加が、本市の男女共同参画を進める上で大きな財産になっています。当時ワークショップを開催し、広範な議論を展開したことが、地域特性への配慮など市の計画を特徴的なものに行っているほか、その後の事業への市民の関心の持続につながっています。

また、秋田県が養成し地域に配置しているF・F推進員（地域において男女共同参画を啓発する推進役となる）2名が非常に積極的で、市の事業にうまく市民を巻き込んでくれています。

今回の標語の募集にあたって、委員の意見により募集方法等が予定よりどんどん大がかりになり（学校への依頼、決定投票の実施等）、行政側の対応が大変になった面もありましたが、それだけ市民が関心をもって本市の男女共同参画事業に関わっていただいている証左でもあります。

秋田さきがけ新聞
平成17年9月21日

男女共同参画推進事業「おんなとおとこのワイワイあごら」

大阪府河内長野市市民文化部生涯学習推進室（河内長野市男女共同参画センター）

（H17.4.1 現在人口 120,549 人）

TEL 0721-54-0003

FAX 0721-54-0004

メールアドレス

ホームページ

kiiccs@mbbox.city.kawachinagano.osaka.jp

<http://www.city.kawachinagano.osaka.jp/index.html>

○ 目的・概要

当初は男女共同参画社会実現のために、市が主催で計画（プラン）に沿った様々な啓発講座・事業を実施していた。しかし、より広く多くの方々への参加の呼びかけ、市民の目線で市民から市民への発信、様々な団体間の交流の場となることを目的に、事業については、平成14年度より市民の方で構成された「かわちながの男女共同参画市民実行委員会」（平成9年度から企画・運営スタッフとしての係り方をさせていただいた方々で構成）に委託し実施する形態をとることとした。

事業の概要としては、当初「おんなとおとこのワイワイあごら」という1日のイベントを実施していたが、平成15年度からは、「あごら」の他に生涯学習見本市への参加や講座を企画・実施。平成16年度には「あごら」、男女共同参画週間講演会、シネマ&トークを実施、そのほかにも生涯学習情報誌への記事の掲載（男女共同参画のコーナー）、活動報告書の作成など年々活動の幅を広げている。

※あごら＝ギリシャ語で「みんなの広場」を意味する言葉。

○ 特徴

平成9年より企画・当日運営スタッフとして、市民の方を公募し、事業に参加いただいていたが、平成14年度より実行委員会への委託という形態をとり、団体もしくは個人で活動する場として実行委員会を形成した。その中で意見交換を行い、事業の内容・企画・運営・実施をし、事務局である行政との協働の場となっている。また、参加者への意識啓発の場の提供をしているのはもちろんのこと、実行委員自身の学びの場（自分達で発信する、団体との交流など）、団体への意識啓発の場（団体の参加）としてもネットワーク・交流の場としての相乗効果も高まっている。

また、市民意見を多く取り入れるため、自分達の疑問から（市民のジェンダー意識はどうか？）平成15年度には「あごらアンケート」（ジェンダーアンケート）を生涯学習見本市などへの参加者1,000人に実施し、姉妹都市であるカーメル市（米国インディアナ州）と河内長野市の比較を行い、平成16年度に報告した。また、平成16年度には一行詩を公募し112作品応募いただき館内に掲示し、見た方に投票をしてもらうなど、より多様な形で参加いただけ、しかも気軽に啓発となる事業を実施するなど工夫している。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

男女共同参画というと、堅苦しいイメージや敷居の高さを感じる方が多い中、出来る限り参加いただけるよう、曜日の設定、全事業への一時保育の実施・手話通訳の実施を行った。また、事業の中でも映画などの視覚から訴えるものや一行詩の公募、あごらアンケートなどを行い、より参加いただきやすい事業を計画した。また、今までと違う層への働きかけとして生涯学習見本市への参加など新しい分野との連携も行った。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

予 算： 950,000円（委託料）

従事する職員数： 0.5名

○ 取組による効果、参考データ等

事業を実行委員に委託することで、実行委員、参加いただいた団体、参加者の三者に様々な効果がみられた。

まず実行委員であるが、実行委員自身が学ぶ側から市民の目線で発信する側となり、より多くの学ぶ機会、個人・団体としての活動を広げる機会となっている。

参加いただいた団体としては、今後の活動に男女共同参画の視点を持っていただけるよう事業への団体参加を呼びかけているが、平成15年度のおごらでは参加団体も3団体であった。しかし平成16年度のおごらについては、参加団体も10団体へ増えるなど、実行委員と参加団体との交流の場として、また意識啓発の場としても充実してきている。

また、参加者への啓発であるが、平成14年度の1日の「あごら」では参加者は900人（ただし、市民交流センター開館記念事業と同時開催）であったが、その後は複数の事業を行ったことで、参加者も平成15年度は1,100人、平成16年度は1,200人など毎年徐々に参加者も増え、より多くの方への啓発が実施できた。

○ 今後の課題・方向性

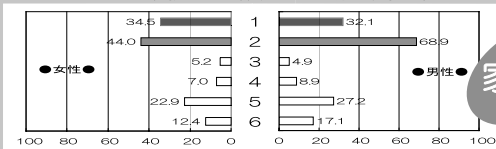
財政状況が厳しい中、限られた予算内でどれだけの内容の充実を図るかということ、新しい人材の発掘、全く無償であるがための活動の制約、団体間のネットワークの充実などがあげられる。予算に関しては、今後様々な方法の検討が必要である。人材については、市主催講座などで学習をつまれた方への案内やあごらへの参加者への呼びかけなどを今後も行っていく方向である。3つめの全く無償であるがための活動の制約についてであるが、予算や会議資料などの細かい処理は事務局で行わなければならない部分が多く、会の自立性という意味ではまだ遠いものがあるが、市民の相互啓発こそ気づきの機会も多い。ただ今後会の運営方法については検討も必要である。4つめのネットワークの充実であるが、今後本市の団体間のネットワークはもちろん他市で活動されている団体との交流も必要であると感じており、交流を進める予定をしている。

展示

あごらアンケート 結果

※アンケートは、そう思う項目に、全て○をつけてもらい実施しました。

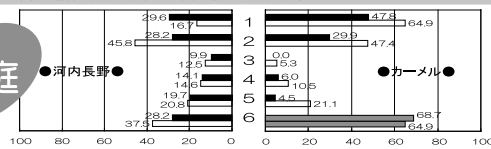
- 1. 女性男性ともに30ポイント以上割が「当たり前」と思っている。
- 2. 女性男性ともに最も高く、男性は68.9ポイントと非常に高い。



◎河内長野市 (総合)では・・・◎

◎各10代では・・・(河内長野市とカーメル市)◎

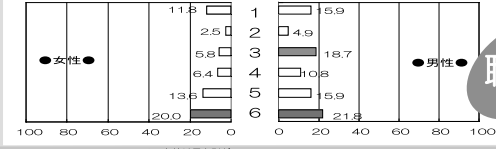
グラフ上段：女性、下段男性



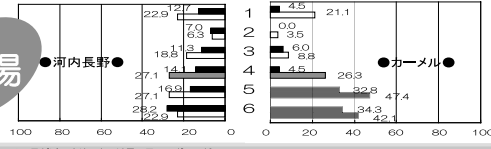
- 1. カーメル市では夫婦は名前で呼び合う。「主人」と呼ぶという意味になるため怒鳴り散らかる河内長野市と違っている。
- 2. カーメル市の方がかなりの数値が高い。これは父親が「家長」という認識が強いことを表している。
- 3. カーメル市では夫婦は名前で呼び合う。「主人」と呼ぶという意味になるため怒鳴り散らかる河内長野市と違っている。
- 4. カーメル市では夫婦は名前で呼び合う。「主人」と呼ぶという意味になるため怒鳴り散らかる河内長野市と違っている。
- 5. カーメル市では夫婦は名前で呼び合う。「主人」と呼ぶという意味になるため怒鳴り散らかる河内長野市と違っている。
- 6. カーメル市では夫婦は名前で呼び合う。「主人」と呼ぶという意味になるため怒鳴り散らかる河内長野市と違っている。

家庭

- 3. 男性は女性のおよそ3倍である。
- 6. 女性男性ともに高い。



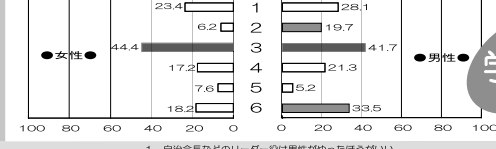
◎河内長野市 (総合)では・・・◎



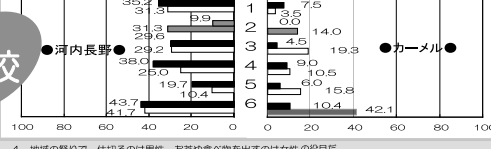
- 1. カーメル市ではかなり以前から混合名簿である。
- 2. 河内長野市でも男女差が著しい。
- 3. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 4. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 5. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 6. カーメル市の男性の数値は女性の4倍。

職場

- 2. 男性が女性の3倍となっている。
- 3. 男女共に高い結果となっている。
- 6. 男性が女性の2倍となっている。



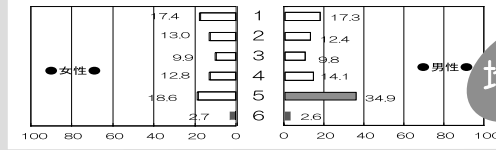
◎河内長野市 (総合)では・・・◎



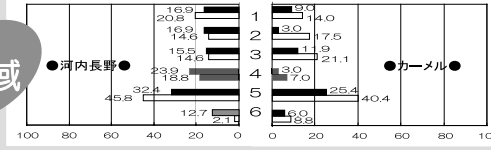
- 1. カーメル市ではかなり以前から混合名簿である。
- 2. 河内長野市でも男女差が著しい。
- 3. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 4. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 5. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 6. カーメル市の男性の数値は女性の4倍。

学校

- 5. 男性が女性の2倍となっている。
- 6. 男女共に少ない結果となっている。



◎河内長野市 (総合)では・・・◎



- 1. 河内長野市ではかなり以前から混合名簿である。
- 2. 河内長野市でも男女差が著しい。
- 3. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 4. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 5. 英語には日本語ほど言葉男言葉がない。
- 6. 河内長野市では女性の数値が男性の6倍。

地域

【総評】河内長野市統計では... 河内長野市での意識調査(全体)では、24項目の設問中16項目が男性の方が女性より数値が高くなっている。特に【職場】では、全設問で男性の方が女性より高い。全体の項目の中では【家庭】の「男の子より女の子の言葉遣いや態度が気になる」という設問で男女共にポイントが非常に高く、また【家庭】の「男の子は強く、女の子は優しく」と【地域】の「介護は女性の方が選んでいる」などの項目では、男性の方が女性より高い数値が出ている。

【総評】各10代では... 日米の文化の違いにより、若干設問の解釈が異なっている部分があるが、それをきめて興味深い結果が出ている。河内長野市の女性は男性より11項目数値が高い。一方、カーメル市では女性は2項目だけ男性より数値が高くゼロの回答が3項目あった。また、各数値の総計で見ると河内長野市では女性：514.1ポイント、男性：558.4ポイントで男女差は44.3ポイントで男性が多くなっているが、カーメル市では女性：334.6ポイント、男性：577.2ポイントで男女差が242.6ポイントで男性が著しく多いという結果がでている。

ユニークな「まちづくり講座」の開催

兵庫県加古川市男女共同参画センター

(H17. 4. 1 現在人口 266, 386 人)

TEL 0794-27-9767

FAX 0794-54-4190

メールアドレス

ホームページ

danjyo@city.kakogawa.hyogo.jp

<http://www.city.kakogawa.hyogo.jp/hp/danjyo/>

○ 目的・概要

加古川市は、まちづくりの基本理念の一つを「協働によりつくるまち」としています。そこで、市民とともに地域に愛着と誇りを感じ、活力あふれるまちをつくっていくため、加古川市男女共同参画センターで平成14年度から「まちづくり講座」を開催し、新しいまちづくりの提案をしています。

男女共同参画センターが「まちづくり講座」を開催するのは、男女共同参画社会づくりが、実はまちづくりであるという認識に基づいているからです。また、社会参画したいと考える女性や、就業を希望する女性が増加している中、市民活動やNPOという新しい分野へ女性の参画を促そうというねらいもあります。

平成16年度は「地域と社会とともに歩む～民・官・学の女性リーダーの挑戦」をテーマに開催（5回コース／兵庫大学附属総合科学研究所と共催）し、民・官・学の分野で活躍している女性リーダーをお招きし、それぞれの立場から「まちづくり」に対する体験や考えをお話いただきました。

平成16年度まちづくり講座

- ①「今を輝く—協働を楽しむ時代へ—」／兵庫県理事 清原桂子
- ②「NPOからコミュニティ・ビジネスへ—その軌跡と広がり」／特定非営利活動法人 宝塚NPOセンター理事兼事務所長 森綾子
- ③「赤い気炎」／金盃酒造株式会社 代表取締役社長 高田貴代子
- ④「人とともにコミュニティに生きる」／特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸理事長 中村順子
- ⑤「ジェンダーはどうしてつくられるのか？」／兵庫大学学長 大村英子

○ 特徴

これまで、「協働によるまちづくり基礎講座」、「男と女 まちの元気づくり講座」、「民・官・学—女性リーダーの挑戦」というテーマで開催し、行政職員や市民、NPO関係者、大学関係者、ジャーナリスト、民間会社代表など、幅広いジャンルから講師を選びました。平成14年度に「まちづくり講座」の講師として、地元兵庫大学から講師を招いたことがきっかけとなり、平成15年度・16年度は地元大学との協働事業として開催することになりました。

以前から、市の若手職員からなる職員政策研究会と大学の附属研究所がまちづくりの共同研究を行ってきたので、まちづくり講座開催にあたって、市と大学との連携はスムーズで、相乗効果もありました。連携することにより、大学側は単独で公開講座をするよりも多くの市民参加を得ることができ、市（センター）側も講師選定を共同で行い、内容の充実を図ることができました。

平成17年度は地域のNPOと協働することにより、新しい「まちづくり講座」を検討中です。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

平成16年度「まちづくり講座」1回目、2回目、4回目は、それぞれ違った立場で阪神・淡路大震災に遭遇し、仕事として、またボランティアとして「復興への熱い思い」を共有してこられた清原桂子さん、中村順子さん、森綾子さんの体験、活動内容をお話いただきました。3回目は女性社長高田貴代子さんの奮闘記を、5回目は大学の学長になった大村英子さんの体験をお話いただきました。

民・官・学のロールモデルとなる女性を提示し、体験や考えを聞き、身近に接することで、女性のチャレンジ意欲を高めることにつながったと考えています。

平成17年度は、NPOと協働で「まちづくり講座」を開催し、そのノウハウを活かしながら、事業を展開したいと考えています。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

委託料 150,000円

職員数 6名。(6名のうち、1名は兼務、2名が週1回勤務)

○ 取組による効果、参考データ等

地元で活動している NPO や市民団体からの参加が多くあり、アンケートからも「行動をかきたてられた」、「具体的で前向きで輝く女性のすばらしい講演だった」、「目からウロコでした」、「地域の活動、コミュニティのあり方を見直さなければ」という声が寄せられ、受講いただいた方からはおおむね好評を得ました。

○ 今後の課題・方向性

<今後の課題>

今回、阪神・淡路大震災に遭遇し、「復興」に関わった女性たちを中心に講座を企画し、NPO を立ち上げて地域の問題解決を図っている状況などをお話いただきました。ロールモデルとなる女性たちを提示できたことは評価できますが、震災という特異な状況でのお話で、身近な内容ではありましたが、そこに至るまでの手法や実践的な内容が不足していたように思います。

活力あるまちづくりを推進するためにも、今後はより実践的な内容のものも実施していきたいと考えています。

<今後の事業の方向性>

平成 17 年度は、NPO がこれからの地域活性化のためにますます重要な役割を担い、また現在、女性の多くが NPO の中心的な役割を担っていることを踏まえ、NPO に関する講座を開催する予定です。NPO のノウハウを生かしながら、身近で親しみやすい「まちづくり」の提案ができればと考えています。

また、今後も、男女共同参画づくりが「まちづくり」であるという認識のもと、いろいろな手法を取り入れ、継続実施していきたいと思えます。

「～転勤者と讃岐人の出会いの場～女性センターはじめまして講座」

香川県高松市市民部女性センター

(H17. 4. 1 現在人口 334, 004 人)

TEL 087-821-2611

FAX 087-821-2661

メールアドレス jyosei@city.takamatsu.lg.jp

ホームページ http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/664.html

○ 目的・概要

高松市女性センターでは、市民の市政参画を図る目的から、平成12年4月より市民団体「高松市女性センター登録団体ネットワーク」に各種事業（学習・研修事業、相談事業、情報収集・提供事業、活動交流支援事業）の企画・運営を委託している。

現在では、市民が積極的に事業に関わり、市民感覚を取り入れた講座・セミナー等の実施など、より主体的な企画・運営が図られているところであるが、その課題の一つに女性センターの新規利用者の開拓が挙げられる。そこで、県外から高松市へ転入する市民を対象に3回の講座を開催し、高松市の男女共同参画施策について理解を深めてもらい、今後の女性センター事業の参加および同事業の企画・運営への主体的な参画を促すことを目的とする。

第1回 4月21日（木）13：30～15：30

場所：高松市女性センター“サンフリー高松”

「ようこそ、参画おしゃべりサロンへ～出会いからネットワークづくりを！～」

- お茶を飲みながら、高松の魅力や女性センターのこと、市民活動などについて語り合い、友だちづくりをします。

第2回 5月19日（木）10：00～15：00

場所：南部広域クリーンセンター（塩江町）、リサイクル工場（国分寺町）

「施設を訪ねて暮らしに生かそう～南部広域クリーンセンターとリサイクル工場～」

- ごみ処理場やリサイクル工場を見学し、環境問題について日々の暮らしの中でできることを考えます。

第3回 6月14日（火）10：00～12：00

場所：高松市議会

「知りたい！高松のまちづくり～6月定例会市議会を傍聴してみよう～」

- 今、高松市ではどんなまちづくりを進めているのか、市政に関心をもっていただくために市議会を傍聴します。

定員 40名

参加費 無料

○ 特徴

国の出先機関、また企業の支店などが集中する高松市には、3月から4月にかけて県外から多くの転入者がある。その高松市の地域的特性を活かし、転勤者の友人づくりやネットワークづくりをきっかけとして、高松市の男女共同参画施策の理解や事業の参加を促す機会とする。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

- 1 高松市への転入者が多い4月に開講した。
- 2 転勤者だけでなく、地元住民の中でまだ女性センターを訪れたことのない人にも来館を促すために「はじめまして」という言葉を取り入れ、気軽に参加できるイメージづくりをした。
- 3 経費をかけずに、男女共同参画をPRするために、市政バスを利用した施設見学、市議会定例会の傍聴などを取り入れた。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

事業を委託している市民団体「高松市女性センター登録団体ネットワーク」の職員3名

平成17年度予算額 0円

○ 取組による効果、参考データ等

平成17年度実績

第1回 33人

第2回 43人

第3回 20人

なお、講座修了後の7月1日に交流会を開催し、ここで参加者有志約10名がグループを立ち上げるこ
ととなった。グループの活動内容については、今後、話し合いによって少しずつ充実させていく予定であ
るが、さらに参加者のつながりを深め、女性センターの活動への参加や女性の視点を生かした企画・運営
への参画につなげていきたい。

○ 今後の課題・方向性

- 1 転勤者同士の交流がうまく図られており、7月15日に「はじめまして香川の会」が発足、今後、女
性センター事業、市民活動への参画を促していく予定である。
- 2 好評なので、毎年企画していきたい。

転勤者と讃岐人の出会いの場 女性センターはじめまして講座

ようこそ、参画おしゃべりサロンへ
～出会いからネットワークづくりを！～



香川の人って、どんな人だろう？
お友達ができるかな？暮らしやすいかな？・・・
ハーブティーなどのお茶を飲みながら、和やかに
高松の魅力や見どころ、女性センターのこと、市
民活動のことなどを語り合い、友だちの輪を広げ
ませんか？

日時：平成17年4月21日(木)
13:30～15:30
ところ：高松市女性センター“サンフリー高松”
5階 第7集会室



 対象 市内に在住または通勤・通学している人
定員 40人
参加費 無料
締切り 4月16日(土)
お問合せ・お申込先 高松市女性センター“サンフリー高松”
〒760-0020 高松市錦町一丁目20番11号
TEL 087-821-2611 / FAX 087-821-2661

転勤者と讃岐人の出会いの場 女性センターはじめまして講座

知りたい！高松のまちづくり
高松市議会へようこそ！



～6月定例議会を傍聴してみよう～

転勤者の方だけでなく、高松にお住まいの方も一人では
行きにくいところです。
この機会に、議会でどのようなことが話し合われている
のか、私たちが住む高松のまちづくりがどのように働めら
れているのか見学してみませんか？

日時：平成17年6月14日(火)
ところ：9:30高松市役所ロビー集合
10:00～12:00 傍聴
*受付で個々に傍聴申込みを書きます

 対象 市内に在住または通勤・通学している人
定員 40人
参加費 無料
締切り 6月6日(月)
お問合せ・お申込先 高松市女性センター“サンフリー高松”
〒760-0020 高松市錦町一丁目20番11号
TEL 087-821-2611 / FAX 087-821-2661

地域（隣接市町等まで含む）における男女共同参画推進・啓発

鹿児島県知覧町総務課

(H17.4.1 現在人口 13,604人)

TEL 0993(83)2511

FAX 0993(83)4658

メールアドレス soumu@town.chiran.lg.jp

ホームページ http://www.town.chiran.kagoshima.jp

○ 目的・概要

推進法が施行されて以来、先進自治体においては「条例」制定や「実施計画書」の策定、「推進都市宣言」など、積極的な活動が執り行なわれてきているが、本町における活動は皆無であった。地方分権が進んでくると、自治体間格差は歴然とした形で表面化するため、市町村合併を前に、住民に対し何らかの周知・啓発を行い、本町住民の意識を少なくとも近隣市町在住の住民レベルに引き上げる必要に迫られていた背景がある。ところが著名な講師を招聘し、講演を催しても参加者は100名以下、各種会議・大会時における参加者も女性が主で顔ぶれもほぼ同じ…という状況が続く。さらに「男女共同参画」の言葉が連呼されるようになってくると、専門用語や横文字が飛び交い、問題をさらに解り難くしていき、住民から「素直な推進・普及啓発」の具体的提言など発せられにくい社会環境へと変わってきた。原点に戻り、住民の誰もが解り易く「この裾野の広い問題」に関わっていくためには「どうしたらよいか？」ということを再考したとき、地元の人情・風土を一番理解している地域住民を関わらせる手法が一番の得策である…という結論に至った。

○ 特徴

本町には、これまで数回の自主講演を行い、観劇動員も常に満席という実績を持つ地元住民による劇団サークルがあり、この劇団の脚本担当者に「男女共同参画推進」をテーマにしたミュージカルを…と持ちかけ、児童生徒から高齢者世代までの幅広い層で「それぞれに何かを感じ取ってもらえる」作品を創作したところである。

地元の間人が、自然と引き込まれ、気付いた時には「これまでの考え方を、ちょっと変えようかな？」という…そして、今の時代「いろんな考え方、生き方など多様化している時代」にマッチさせ、固定的な頑固な人間を「やさしく、流れに合流させる」作風に仕上げることで、老若男女の中におけるノーマライゼーション社会実現のための礎にしようと試みた。

…普段どおりの生活臭さ、鹿児島弁、働く女性と子育て、頑固親父、母親の愛情…etc.

○ 実施にあたって留意・工夫した点

多種多様化している現代社会にあって、人の考え方・物の見方・生き様・生活パターンなど「こうでなければ…」はあり得ない。しかしながら日々目まぐるしく変容する大都市部と異なり、鹿児島の一地方という限られた域内では「相変わらず…こうでなければ…」も地域社会が容認しているきらいもある。が、現状のままでは「ダメ」は、住民が一番わかっている事。

国は勿論、県域内で様々な取組みがなされ、住民も「概要や今後の方策・施策・展開」については程度の差こそあれ、ある程度浸透はしてきている。「それは言われなくてもわかっている！」という観念を「それじゃー、できることからやってみよう！」という行動に変えさせる、そのためには「顔馴染の役者が、生活感溢れるセッティングの中で、身振り手振りで演じて見せる…」ということが1点。「あんな生き方、許さん！」は、役者の演技。観劇者が持つ個々の観念を否定したり、非難することのないようなストーリーに！！…が2点目。

本町の隣町では「条例」制定や「実施計画、宣言」まで行っている先進団体もあるが、初歩的な説明を望む住民もいるのでは…？ 単体の町域にとらわれず、広域的に活動するうえで、高度な取組みをする団体と初歩的啓発をする団体があってもいいのでは…？そしてお互い狭い町域を超え、そのノウハウを互いに有効に活用する。ちなみに本町は、初歩的啓発をおこなう団体としての役割を担おうではないか！！…が3点目。以上留意した3点である。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

16年度事業に関連する予算措置は0円。検討委員会関係の計上分39千円のみ。

従事する職員数：0.1人×6人（庁内委員）＝0.6人

ちなみに、16年度の事業として劇団に助成した額は50千円と、ホール使用料の半額免除。

○ 取組による効果、参考データ等

著名な専門家を招いての「啓発講演」には約70名（もちろん行政としてのPRのまずさもあるのでしょうが…）。町の主催する各種大会に参加する住民も関係者以外はごくわずか…。

今回の劇団による作品上演は、観劇人数は視野になく、「どれだけ、この問題について認識していただ

るだろうか…？」であった。

3月末の多忙な時節にもかかわらず、2回の上演（1回の上演：2幕3時間）で観劇者・立見を含め約1,600名（ホール収容数750）の方々に、広く浅く認識していただくことができなかった。当初、域内の住民の方々だけでも…の思いであったが、県内各地から観劇のため来町いただき「ぜひ、うちの町でも…」などという声を、いくつか頂いた次第である。

○ 今後の課題・方向性

この問題は、習熟度が増すにつれ、また時代の経過とともに多くの課題に突き当たっていくという、大変裾野の広い分野でもある。住民の多種多様化するニーズに行政としてどこまで対応できるかが、大きな鍵でもあるともいえる。本町のように取組みの遅れた自治体にとってはスタッフの養成には時間と労力も、かなりのものを費やさなければならないが、近隣市町と相互に補完し合うことで、有効的・効果的な取組みができることも期待される。

実施にあたっての留意点でも述べたとおり、「わが町の施策」という狭義の取組み、自己満足で済ますのではなく、先進的取組み団体との連携で、本町の担う役割を十二分に発揮し、効率のよい施策を推進していきたい。

それぞれに個性ある活動を展開してきている本町に隣接する自治体（鹿児島県川辺町や穎娃町、そして指宿市、南さつま市、枕崎市など）と協働しつつ、域内住民へのこの問題に対する啓発・周知を地道に推し進めながら、日本の南端から次世代への橋渡しをおこなっていけたら…と考えている。

○ その他特記事項

本町を含め隣接市町の域内は、農林水産業が活発である反面、企業等の就労の場は大都市部に比べかなり少ない地域である。農業や自営業以外の企業等に勤務する成壮年層は、勤務地に近い地域へ居住するなどの特性も見られ、域内の社会環境風土は、大都市部の認識の進展に比べ、スローな面も否めない。

このことは、地域の文化や慣習などを引き継いでいくうえでは有効なのだが、身体的・性別的ノーマライゼーション社会構築のためには、ときに「足かせ」となる場合もある。

「よそ者」が地域のことも知らないで……？？と、パッシング。

では、地域のことを知ってる者は、地域のことを知り尽くしているからこそ…「おかしい？」ものが「あたりまえ！」ものになってたのでは？？ 波・風立てぬよう、目立たぬよう。

でも、社会を変えていくためには、「あたりまえ！」になっていた「おかしい？」ものを、ここがおかしい…と皆で唱え、本当の意味での「あたりまえ！」に変えていかなければ……

国策で推進する「男女共同参画事業」の全てをこの域内にあてはめていくためには、地域のことに精通した地域の間人が、その地域の間人に受け入れられる手法で、進めていくことも「ひとつの手法」である…ことを再認識。（ただ、わかってはいても、実際に動いてくれる人材がいなければ、飾り言葉…に終わった。…と思います。）



きつねも父娘の確執を解かそうと画策するが…
最後は家族愛が！



有馬広子さん（川辺高3年）



赤崎千夏さん（錦江湾高3年）

高校生劇団員の2人も大活躍！
2人とも、前作『ナム！』に続き2回目の出演。公演終了後、きつね役を演じた赤崎さんは「幕が上がると、全視線が背中に突き刺さり、振り返れば感じるホールの息遣い。私はこの瞬間が大好きです」と話し、「一生忘れられない体験をすることができました。温かい目で観てくださった皆さま、本当にありがとうございました！」と声を弾ませながら話していました。

男だ女だに関係なく
お互いを思いやることから始めよう！

劇団いぶき <http://www.synapse.ne.jp/ibuki/>

郷土色たっぷりの創作劇「きつね」
観客千三百人を魅了
劇団いぶき第七回自主公演

昨年十二月の「ナム！」公演からわずか三ヶ月。脚本、音楽から全てオリジナルで挑戦しつづける劇団いぶき（代表・宮原俊郎）の「きつね」。公演が三月二十六・二十七日、知覧町民会館であり、郷土色あふれる作品が約千三百人の観客を魅了しました。（一日間、二回公演）今回の「きつね」は、男女共同参画を取り上げた作品。物語は、実際にありそうな普通の家庭を舞台に、男女の役割を顛としながら思いやることの大切さを描いた内容。

「がんこ親父と気の強い娘、二人の確執を解かそうとする明るい母ちゃんを化けるきつね。そして、三人をとりまく愛すべき人々。知覧の伝統文化であるカセウチや神舞も織り交ぜながら、役者が演じる日常行われている男女の役割などが、ユーモアたっぷりの会話で展開するなど、笑いあり、涙ありの舞台。素敵なコーラスや音楽、魅せる踊りなど、地元役者による白熱した演技に、まさに客席と舞台が一体化した二時間半でした。公演終了時は、たくさんの花束も贈られ、感動の言葉が会場のあちこちで聞かれました。

町広報誌より

男女共同参画行政地域連絡会委員による推進活動（寸劇等）

沖縄県宜野湾市企画部企画政策課

(H17.4.1 現在人口 89,782人)

TEL 098-893-4411(421)

FAX 098-892-7022

メールアドレス kikaku01@ami.city.ginowan.okinawa.jp

ホームページ <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

○ 目的・概要

本市では、平成16年10月に「第2次宜野湾市男女共同参画計画～はごろもぶらん～」を策定しました。その推進体制として、「男女共同参画行政地域連絡会」という組織を「計画を地域で具体的に推進する」という目的で位置づけています。委員は、市内各行政区（23区）より各1人を選任し、中学校区別に4つのグループに分けて活動。活動内容としては、はじめに各グループより企画書を提出してもらい、それに基づいた活動を任期中（1年）に行なう予定です。これまで（H16.11～H17.7）行った主な活動は、公民館における寸劇公演及び啓発パネルの展示、各自治会役員等における男女の比率調査など。各委員の主体的・積極的な活動により、各地域住民に対して意識啓発を行なうという、草の根的な細やかな活動を、市民と行政の「協働」で実行しています。

○ 特徴

- ・ 委員については、地域活動を活発に行っている人材を各自治会より選出していただいているため地域とのつながりが深い委員が多く、各自治会との調整がスムーズに行なわれ、積極的に啓発の場の設定が行なわれています。
- ・ 寸劇公演は、自治会総会後の時間を提供していただき実施するなど、地域へ出張して啓発事業を行っており、参加者（観覧者）の男女比は、男性の方が多くなっています。集客型で開催する市主催の講座やフォーラム等の事業では、参加者に女性が多く「男性への啓発」が課題となっていますが、それを補完する効果があります。
- ・ また、前述の集客型の啓発事業では、テーマに興味のある市民や何度も参加している市民が集まる傾向にありますが、自治会総会後等に行う寸劇公演では、テーマに興味関心が薄い市民に対する啓発ができ、市民理解の底辺拡大になり気運の醸成が図られている。
- ・ 委員が自主的に学習会やシナリオ作成などを行っており、委員自身が意識改革・エンパワーメントしながら、その周辺の地域住民へ伝えていき波及効果をもたらしている。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

- ・ **会議のもちかた**
市で予算化している委員に支払う謝礼金は会議2回分のためのため、これまでは、市からの任務説明と啓発研修にとどまり、地域での推進には至っていませんでした。しかし、今期の会議より、①第1回会議では、委嘱状交付と企画書の提出。②任期期間中に活動（謝礼金無し）③第2回会議では、活動の総括を行なうとして、任期期間中の1年間は、委員としてさまざまな活動を行っていただくようお願いしました。
- ・ **活動内容**
委員のみなさんの活動がボランティア（無報酬）になるため、予算的な説明（謝礼金は会議2回分のみ）のうえで各グループが自主活動の範囲で実行可能な取り組みをお願いしました。
- ・ **委員構成**
男女構成比が5：5になるよう、各自治会に、市側から性別を指定し、推薦依頼をしました。（結果としては、どうしても人材が探せないという回答もあり、女性15人、男性8人となった。）

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

予算：92,000円（委員謝礼金2,000円×23人×2回）

従事する職員数：2人（男女共同参画行政担当）

※寸劇公演の際は職員も参加。

○ 取組による効果、参考データ等

※効果は「②特徴」で記述したとおり（要点及びデータを下記に示す）

- ・ 地域（各自治会）への啓発の場の設定が効果的かつスムーズ
- ・ 男性に対する啓発を効果的に行なうことができる。（表1参照）
- ・ 啓発内容に興味関心の薄い市民に対しての啓発を効果的に行うことができる。（表1参照）
- ・ 委員自身がエンパワーメントされ、地域への男女共同参画社会実現に向けての啓発リーダー的存在として、周囲に関わる市民への啓発に波及効果がある。

表1 地域連絡会による啓発事業の参加者等

啓発地域及び機会	啓発方法	参加者合計	男性	男性の比率
長田区自治会新年会	パネル	-	-	-
宜野湾区公民館まつり	パネル	約500人	-	-
〃 舞台部門	寸劇	約60人	約30人	約50%
野嵩1区自治会総会	リーフレット	-	-	-
中原区自治会総会	パネル	55人	17人	31%
19区自治会総会	寸劇・パネル	127人	90人	71%
真栄原区自治会総会	寸劇	43人	27人	63%
新城区自治会総会	寸劇・パネル	88人	58人	66%
野嵩2区自治会総会	説明	25人	13人	52%
市女団協総会	寸劇	約50人	2人	約4%
市男女共同参画週間 オープニングセレモニー	寸劇	約60人	25人	約42%

※ “パネル” は「パネル展示」、「リーフレット」は「リーフレット配布」
“説明”は「男女共同参画行政の説明」

※ “-”は「把握していない」

○ 今後の課題・方向性

- ・ 委員の活動がボランティアによるものであること及びその活動成果について広く市民へ周知することにより、男女共同参画社会の実現が市民と行政の「協働」で行なうべき課題であることを共通理解し、委員の行政に対する参画意欲を高めたいと考えています。
- ・ 今期の委員のこれまでの取組は、地域住民へわかりやすく啓発することを目的に、寸劇、パネル展示が中心でした。今後は、地域の実態調査やそれに基づいた対応策としての啓発方法の研究・実施など、幅広い活動に発展することをめざしています。